財団広報

2026 No.44

心豊かで夢を持ち、郷土を愛する人を育てる

Fantastic Life Fantastic Foundation

将棋教室にプロ棋士来訪

10月３日（土）、釜石市出身のプロ棋士・小山怜央（こやまれお）四段をお迎えし、今年度５回目の「少年少女囲碁将棋教室」を開催しました。当日は、将棋教室に13人の生徒が参加。小山四段は、自身の持ち駒を減らす“駒落ち”というハンデ戦で、最大６人を相手に多面指しを行いました。見事に小山四段を詰ませた生徒とは感想戦（対局の振り返り）を行い、駒の動かし方や相手を詰ませるポイントについて、丁寧にご指導いただきました。

生徒からは「練習を重ねて、プロに勝てるようになりたい」と、意欲的な声が上がりました。



特集①

文研コラム 謎解き『遠野物語』の魅力

遠野文化研究センター研究員
小田　富英（おだ　とみひで）氏

特集②

中学生海外派遣交流事業　ほか

文研コラム
Tono Culture Research Center Column

謎解き『遠野物語』の魅力

～謎は「十人十色」 謎解きは「千差万別」～

筆者　小田（おだ）　富英（とみひで）

1949年、東京都生まれ。36年間東京都公立小学校教員を務めた後、作新学院大学特任教授を経て、現在『柳田國男全集』編集委員・日本地名研究所理事・『地名と風土』編集長・遠野文化研究センター研究員・常民大学運営委員・『遠野物語』で交流を楽しむ会（『遠野物語』交流楽会）代表など。編著「柳田国男年譜」（『柳田國男全集』別巻Ⅰ）他。

二〇二二年の『柳田國男自筆　原本　遠野物語』（岩波書店刊）の刊行をきっかけに、私は、ひとつの確信に似た強い思いを抱くようになりました。その思いとは、『遠野物語』こそが、「謎解き柳田学」の代表作で、柳田国男自身がそうであったように、未知の読者の好奇心をもわしづかみにする、未来に向けた好著として位置づけるべきだとの思いです。ここでは、その一端をお示しすることとします。



『柳田國男自筆　原本　遠野物語』（岩波書店／2022年）

『遠野物語』の最初の一行にある「昨明治四十二年の二月頃より始めて・・」は、誰もが「はて?」と立ち止まる一節です。佐々木喜善から聞き書きを始めたのは、その前の年、明治四十一年十一月四日と明らかになっているからです。多くの研究書は、「事実と違う」あるいは「柳田の間違い」としてきた箇所でもあります。かく言う私も、『口語訳　遠野物語』（佐藤誠輔著、河出文庫）の注に「柳田国男の記憶ちがい」と書いています。

「本当に柳田国男の記憶ちがい?」「当時、「手帖（日記）をつけていたとされる柳田が間違える?」、「事実は違うだけで済ませていいの?」という謎を私たちがもつことが、未来の読者と手を結ぶことになると思うのです。さらに、この謎解きは、それぞれの読みのなかにあり正解はないのですが、私の辿り着いた解釈をひとつ紹介することとします。



『口語訳　遠野物語』（佐藤誠輔／河出書房新社／1992年　※2014年から文庫化し、現在26刷）

『原本　遠野物語』で誰もが読めるようになった柳田自筆の「毛筆稿本」と、刊本『遠野物語』を比較して、最初に気づく大きな違いは、次のような柳田の書き換えです。（前者が「毛筆」、後者が刊本。数字は『遠野物語』の話の番号）

43「去年の遠野新聞」
　↓「一昨年の遠野新聞」
69「今年の旧暦正月」
　↓「昨年の旧暦正月」
83「二、三年前」
　↓「三、四年前」

他に、「二十六七くらいなるべし」などの年齢の書き換えもあり、実に十一箇所にも修正が加えられているのです。これまで、柳田が、序文で高らかに宣言した「目前の出来事」「現在の事実」の根拠がここにあると誰もが驚き、納得する「事実」であるとされてきました。

ここで、最初の「謎」に戻ってみます。柳田国男は、毛筆原稿を書き直し、清書原稿を書き終えてから、「序文」を書きました。この時柳田は、「この話はすべて遠野の人佐々木鏡石君より聞きたり。一昨年の明治四十一年十一月より始めて」と書いてペンが止まったのではないでしょうか。こう書いてしまうと、書き換えた年数をもう一度直さなくてはならないと思ったはずです。「去年の遠野新聞」は「三年前」、年齢も一つずつ足していかなくてはなりません。その時に、思いついたのが、第一次の聞き取りが終わった「明治四十二年二月」という時期だったのではないかというのが、私の仮説です。

この謎解きの答合わせは、柳田に聞くこともできないので叶わず謎のままですが、自分が納得する力強さだけは残ります。そして今、「記憶ちがい」と書いてしまった私は、柳田国男にずいぶん失礼なことを書いてしまったと悔いてもいます。

私は、謎は「十人十色」、謎解きは「千差万別」が『原本　遠野物語』の果てしない魅力なのだと改めて強く思い、これからも、未知の読者の方も含めた皆さまと共に、謎と謎解きの仮説の集積に挑んでいくつもりです。

Topics

令和８年度遠野文化フォーラム　～魂の躍動～

10月４日（日）、遠野市民センター大ホールで「令和８年度遠野文化フォーラム」を開催しました。第１部では佐々木喜善賞表彰式を、第２部ではしし踊りをテーマに、基調講演と演舞の披露を行いました。

『遠野物語』の語り手・佐々木喜善の名を冠した「佐々木喜善賞」には、今年119点の応募が寄せられました。その中から佐々木喜善賞３点、同奨励賞２点が選ばれ、第１部「佐々木喜善賞表彰式」にて受賞者を表彰し、熱意ある創作活動や探究活動を称えました。



▲佐々木喜善賞表彰式　受賞者集合写真
前列右より、黒澤遼太郎（論文／奨励賞）、富松良介（文芸／佐々木喜善賞）。前列左より、横川奈月（アート／佐々木喜善賞）、五代陸（文芸／奨励賞）、深堀心（文芸／佐々木喜善賞）。

第２部は「遠野の郷土芸能　しし踊り ～魂の躍動～」を主題とし、基調講演としし踊り披露を行いました。

基調講演には、東北文教大学名誉教授の菊地和博氏が登壇。東北地方各地や日本の他地域のしし踊りの特徴と比較しながら、遠野のしし踊りついて解説しました。

また、基調講演の内容を踏まえ、後半では「幕踊り系」と「太鼓踊り系」のしし踊りが披露されました。

遠野のしし踊りの多くを占める「幕踊り系」からは、鱒沢獅子踊保存会・鱒沢小学校に伝わるしし踊りを踊る会が参加。多くの子どもたちがステージに立ち、元気な掛け声とともに踊りました。鱒沢獅子踊りは、今年で伝承400年を迎えています。

遠野市内唯一の「太鼓踊り系」しし踊りである行山流湧水鹿踊保存会は、「追い集め」など、統制のとれた奥行きのある演舞を披露しました。菊地先生からは、「周辺地域に幕踊り系が多い中で、太鼓踊り系の源流の姿を守り続けている貴重な団体」との講評がありました。

約240人が参加した遠野文化フォーラムは、郷土芸能の継承やその在り方を考える機会となりました。



▲第２部「遠野の郷土芸能しし踊り　～魂の躍動～」
①菊地和博東北文教大学名誉教授による基調講演②鱒沢獅子踊り保存会・鱒沢小学校に伝わるしし踊りを踊る会③行山流湧水鹿踊保存会④鎮魂供養の意をもつ遠野のしし踊り。各団体が継承に取り組んでいる

外国人市民向け遠野巡り



10 月 11 日（日）、遠野市内で暮らす外国人を対象とした「遠野めぐり」を開催しました。

当日は、ベトナム、ネパール、インドネシア、フィリピンの４か国出身の在住外国人 14 人が参加し、スタッフ 10 人を含む計 24 人で、遠野ふるさと村、カッパ淵、伝承園を巡りました。

ひっつみ作り体験や観光スポット見学など、遠野の文化や食を満喫した一日となりました。

第 36 回遠野少年少女合唱隊発表会



10 月 12 日 (月・祝)、みやもりホールにて、遠野少年少女合唱隊の発表会を開催しました。36 回目を迎えた今回は、遠野市内の小中学校から集まる 17 人の隊員が出演しました。

第１部では、歴代の隊員が歌い継いでいる遠野のわらべ唄をはじめ、誰もが一度は耳にしたことのある曲など、多彩な９曲を披露しました。



第２部では、ゲストとして千石史子（ふみこ）さん (ソプラノ) と菅原紀子（のりこ）さん (ピアニスト) をお迎えし、隊員とともに合同ステージを行いました。ゲストのお二人の豊かな演奏と、隊員の朗読や歌声が組み合わされ、詩と音楽を深く味わうステージとなりました。

子どもたちののびやかな歌声がホールいっぱいに響き渡る、心温まる発表会となりました。

第 21 回遠野市民芸術祭

10 月 31 日 (土)、11 月 1 日 (日) の 2 日間、21 回目となる遠野市民芸術祭を開催しました。

遠野市民センター大ホールでは、市内 27 団体による舞台合同発表会が行われました。また市民体育館では総合展示会が開かれ、期間中に開催された合同茶会や、楽器・川柳・詩吟などの体験会も多くの来場者でにぎわいました。遠野市役所本庁舎では 2 日 (月) まで、菊花展も開催しました。

31 日 (土) のオープニングセレモニーでは、宮守町の「和太鼓　和（なごみ）」の皆さんによる演奏が披露され、芸術祭の幕開けを力強く盛り上げました。



中学生海外派遣交流事業

遠野市の姉妹都市・米国テネシー州チャタヌーガ市との派遣交流事業。今年度は、選考により市内中学校から２年生９人が派遣生に決定しました。令和９年１月８日 (金) から 20 日 (水) までの 13 日間の派遣に向け、事前研修が行われています。

今年度の派遣はホームステイプログラムを予定しており、週末はホストファミリーと過ごし、平日は現地の学校に通学します。現地の人々との交流を通して、異文化と自国の文化の両方を学ぶとともに、一歩踏み出して行動し、自ら発信できるようになることを期待しています。

令和８年度派遣生紹介　参加の目的や意気込みを聞きました！



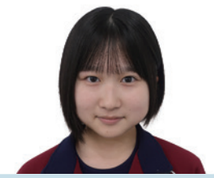
遠野中学校
佐藤（さとう）　和（のどか）さん

遠野市の代表として憧れの海外交流に挑戦し将来の夢への第一歩にします。現地では沢山の人と話し、ひと回り成長して地域の力になれるように頑張ります。



遠野中学校
新田（にった）　一愛（いちか）さん

日本とは違う海外の食や音楽などの文化を実際に体験したいという思いで、参加しました。コミュニケーションを大切にし、英語でたくさん話してみたいです。



遠野中学校
汀（みぎわ）　向葵（ひまり）さん

私は英語をきくことに比べて話すことにはあまり自信がないので少しでも克服したいと思い参加しました。恥ずかしがらずにたくさん英語を話したいです。



遠野東中学校
今淵（いまぶち）　心（こころ）さん

海外に興味があり、事業への参加が自分のため、遠野市のために役立つと思い参加しました。現地では積極的に行動して、たくさん学び成長してきます。



遠野東中学校
菊池（きくち）　彩輝（さいき）さん

ＣＳＬＡ校の生徒とキャッチボールをして外国の人と友達をつくりたいと思い参加しました。チャタヌーガの歴史や文化について学んできます。



遠野東中学校
谷藤（たにふじ）　蒼生（あおい）さん

日本とは違うチャタヌーガの文化を直接見てみたいと思い、この派遣事業に参加したいと思いました。翻訳機を使わず現地の人達と楽しく話したいです。



遠野西中学校
佐々木（ささき）　心羽（しんば）さん

僕がこの派遣事業に参加した理由は、将来アメリカに住んでみたいと思っていたからです。意気込みは、現地の人に自分の思いを積極的に伝えていきたいです。



遠野西中学校
浅沼（あさぬま）　雄光（ゆうひ）さん

僕がこの事業に参加した理由は様々な経験を通じて、自分の視野を広げたいと思ったからです。派遣先では、何事も恐れずに挑戦する事を大切にしたいです。



遠野西中学校
藤田（ふじた）　美桜（みお）さん

この事業に参加しようと思った理由は、英検４級を取得し海外の方と話してみたいと思ったからです。色々なことを体験し将来にいかしたいと思います！

▶▶▶ Information 令和8年11月中旬以降のおしらせ

第49回 遠野市民センターバレエスタジオ発表会

遠野市公設「遠野市民センターバレエスタジオ」の生徒たちが、日頃の練習の成果を披露します。第3部では遠野をテーマとした作品「ささやく遠野」を10年ぶりに披露します。

■日　　時　11月22日(日)　14:00～(13:30開場)
■場　　所　遠野市民センター　大ホール
■入 場 料　一般1,000円、高校生以下600円(未就学児無料)
　　※いずれも当日200円増
■特別出演　横内国弘(よこうちくにひろ)氏(バレエダンサー)
■主　　催　遠野市民センターバレエスタジオ父母の会、
　　遠野市教育委員会
■協　　力　公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団
■プレイガイド　とぴあ、みやもりホール、遠野市民センター、
　　(一財)遠野市教育文化振興財団



第25回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展

市内小中学校の児童・生徒の「わたしの町のたからもの」をテーマにした作品を展示します。ぜひご来場ください。

■期　　間　11月30日(月)～12月13日(日)
■時　　間　9:00～17:15　※最終日は正午まで
■場　　所　遠野市役所本庁舎　市民ホール
■主　　催　遠野ユネスコ協会
■共　　催　遠野市教育委員会、
　　(一財)遠野市教育文化振興財団




▲昨年度のようす。最終日の12月13日(日)には、午前11時から同会場にて入賞作品の表彰式を行います。

生涯学習講座 はじめての断捨離®～軽やかに、心も暮らしもスッキリ～

「片付けが苦手」「もっと軽やかに暮らしたい」そんなあなたへ。やましたひでこ公認トレーナーから断捨離の最初の一歩を学び、住まいも気分もリフレッシュしましょう！

■日　　時　12月20日(日)　13:30～15:00(13:00開場)
■場　　所　あえりあ遠野　中ホール
■入 場 料　1,000円　　■定　　員　30人程度
■講　　師　大坊奈津子(だいぼうなつこ)氏
　　(やましたひでこ公認　断捨離®トレーナー)
■持 ち 物　筆記用具
■申　　込　電話(62-6191)またはQRコードより

ご寄附について

遠野市教育文化振興財団は、皆様からお寄せいただいた寄附金により事業運営を行っています。頂戴した寄附金は、寄附者の意向を伺いながら、遠野市の教育活動、文化活動ほか市民のための活動に活用させていただきます。

寄附は、個人・法人問わず随時受付しています。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

市民の舞台遠野物語ファンタジー
52回公演の脚本決定！
キャスト・スタッフ募集中です。
興味のある方はお気軽にご連絡ください。

発行者
一般財団法人遠野市教育文化振興財団
0198-62-6191　https://www.tono-ecf.or.jp
tono.e.c.f　@tonoecf　@486merpd

発行編集
一般財団法人遠野市教育文化振興財団
〒028-0524 岩手県遠野市新町1番10号
TEL0198-62-6191 FAX0198-62-6195
https://www.tono-ecf.or.jp
https://www.facebook.com/tono.e.c.f

HP　Facebook